

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームいつくしみの郷
(ユニット名)	3階
所在地 (県・市町名)	静岡県浜松市浜北区平口2406-1
記入者名 (管理者)	鈴木良美(長尾直実)
記入日	平成 20 年 11月 1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ひとりひとりが、その人らしく暮らしていけるように、「気持ちの良い生活」を理念に掲げている。	○ 継続していきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が、理念を共有できており、日々の暮らしの中で「その人らしい」「気持ちの良い生活」とはどういったものかを考え、話し合いながら、この理念を実践できるように努めている。	○ 今後も理念を共有し、常に利用者の立場にたって援助をしていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム玄関に理念を掲示しており、いつでも、誰でも目に入るようにしており、入居時にはご家族に説明している。	○ 地域の方々の出入りが少ないので、増やしていきたいと思う
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や病院の行き帰りに近所の方々に会い、挨拶やお喋りをする事で顔を覚えて下さり、ご近所の方から声を掛けて頂けるようになってきている。 しかし、利用者にとって見慣れない、顔は、不穏につながる為、気軽に立ち寄ってもらうまではできていない状況。	○ 交流を深めていき地域の方にも来訪してもらえようしていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する、老健での行事には常に参加している。(運動会、納涼祭など) 納涼祭では、地域の方々も参加して下さるので、良い交流の場面となっている。	○ 地域の人々との交流も大切にしたいので、地域の行事にも積極的に参加していきたい。町内会の方々にはその旨をお話している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員は、ホームの事で精一杯な状況であり、地域の高齢者の方々に役立つことができていないのが現状。ケアマネはホームに寄せられた地域の認知症の方がいる家族の相談にのり、役立てるように取り組んでいる。	○	職員でも何か出来ることはないか考え、話し合っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を通して、改めてこの人にはこういった支援が必要なのではないかと、話し合い実践するきっかけとなっている。また、外部評価の結果をみんなで目を通し、新たな目標を作ることができている。	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の日々の生活をお伝えしている。サービス向上の為に、意見を伺うようにしているものの、参加されるご家族がほとんどいない。個別なことが多いのでそれらは、個々に話し合いを持つようにしている。	○	ご家族が気軽に参加して頂けるにはどうしたら良いのかアドバイスをいただきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回の介護相談員の来訪があり、入居者との交流を持っていただいている。その際は、利用者の方々も歓迎しており、色んなお話をされている。運営推進会議以外に区役所の人と行き来する機会は特に設けていない。		今後、行き来できるように市町村担当者に相談していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は勉強されており、制度の必用な方には活用できるようにしており、それに携わる職員は学んでいる。		職員全員に浸透するように勉強会などを開いて学ぶ機会が持てると良いと思う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法については、皆で資料に目を通し、それぞれが学ぶ機会が持てるようにしている。		勉強会も開けたら良いと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明や、困っている事など相談にのり家族とのコミュニケーションを密にし、退所の際にも十分な説明をするように配慮している。</p>	○ 今後も継続していきたい。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>表情の変化に注意し、日頃の関わりの中で、1対1で話を聞く場面を作るようにしている。 月1回の介護相談員の来訪で、話をする機会を設けている。</p>	○ 今後も継続していきたい。そして、利用者が思っている事をいつでも言えるような雰囲気作りに努めていきたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回、受診連絡表を送付している。また、必要に応じて、受診の前後に電話にてご家族に報告している。また、写真入りのお便りも月1回送付しており、日々の暮らしの様子を伝えている。金銭管理に関しては、お小遣い帳のコピーと領収書も送っている。</p>	○ 職員の異動に関して、要望や必要があれば報告していきたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会の際には、職員から必ず声を掛けるようにしており、日々の様子を伝えたり、ご家族の話も聞くようにしている。また、家人面談の際にも相談や、意見などもじっくり聞くようにしている。運営推進会議の際には、外部者も来るが、参加されるご家族は少なく、意見も特に聞かれていない。</p>	○ これからもご家族との交流を深めていきたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者と日頃から話す機会が多く、フロアの様子を見に来たり業務に入ってもらっているので、状況も伝わりやすく、意見や提案を取り入れてもらっている。</p>	○ 今後も継続していきたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>外出の日には、職員も全員出勤にしたりして、職員の確保を行っている。また、家族の要望に対して勤務の調整も柔軟にしている。</p>	○ 今後も継続していきたい。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者に不利益になるような異動はしていない。また、今年度の異動はしていない。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会を講師を順番に担当して実施している。施設外の勉強会及び研修は、行く人が偏ることの無い様順番に勤務内においていけるように配慮している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の施設交流研修には参加希望者は全員勤務内において参加できるようにした。他施設との比較をすることで質の向上を図るようにしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休日には仕事と分離して休めるように休日数の確実な確保が出来ス用になっている。また休日希望日はほぼすべてを可能にしている。	○ 職員全ての状況を把握するには至っていないが、極力話す機会をこちらから設けてより一層の把握に努めたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	生活面にしても仕事にしても常に前向きであるよう話している。努力している様子が伺えるときには積極的に評価している。	○ 職員とに話す場面を多くして、より一層の把握に努めたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が入居前、見学に見える事もあるが、その時に本人からも話を聞くようにしている。入居後、慣れるまでは不安な気持ちである為、なるべく傍についていつでも話が聞けるように配慮している。	○ 継続していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の電話や見学の時などは、ケアマネが対応し、じっくりと話す機会を設けている。そして職員も、ご家族の話や悩みを受け止める努力をしている。入居後も面会時や電話できちんと相談にのっている。	○ 継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族にとっての一番いい方法を検討するようしており、何が必要かをきちんと把握できるようにつとめている。	○	今後も常に相手の立場にたつことで見極めをしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の性格などを家族によく聞き、時には家族に面会にきてもらうなどの協力を得ながら、常に気にかけてあげ、安心できるように配慮し、少しずつ、みんなの輪の中に馴染めるようにきっかけ作りをするようにしている。	○	今後も家族の協力を得ながら職員間の話し合いを大切にしていきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔のことを聞いたり、本人の得意な事(料理、裁縫、絵を描く、掃除、踊りなど)が自然に発揮できるように努めている。「頼りにすること」で気持ちよく行えている。また、何をすることも本人に確認したり、相談したりして、互いに支え合って生活している。	○	今後も、人生の「先輩」として、家族のような関わりをしながらも、敬意を持って接していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会や、外出・泊ができ、面会に来られた時には、話をするようにし、最近の様子を伝えたり、本人の援助に関する相談などをして家族の理解を得ながら、協力しながら、本人を支える努力をしている。例えば、入浴介助を職員がすることによってどうもていこうがある利用者には家族の方に一緒に手伝っていただいている。	○	今後も家族と協力しながら共に利用者を支えていけるようにつとめていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、家族の双方から家族の話などを聞いたりする事で互いの気持ちが理解できているし、本人が家族に会いたい時などは電話するなど、また、家族が気兼ねなく面会に来ていただけるように努めている。	○	さらに良い関係作りのために何をすればいいのか話し合いを持ちたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの友達や、馴染みの方の面会など、いつでも来てもらえるように家族に伝えている。なじみの美容院がある方には家族と出掛けてもらっている。	○	本人が今まで大切にしてきた方や場所などの関係が薄れてしまわないようにこれからも支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握したうえで席替えをおこなっている。また、行動や会話の中でトラブルが起きないように見守り、声掛けには特に注意している。居室から出てこない方を心配して呼びに言ってくれたり、分からない事がある方の話を親身に聞いてくれたりと、日常生活の様々な場面で常に支え合っている。そんな時は職員はさり気なくフォロー	○	今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	例えば入院先に御見舞いに行ったり、契約終了した後の行く先の相談にのったりと、関係をこちらから断ち切ることはない。	○	継続的な関わりが必要な時どうすればいいのか勉強したい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの際に家族から聞いたり、毎日の関わりの中から、本人からも昔の出来事や、感じ方などを聞くようにしている。困難なかたにもまず聞く、そして、利用者が常にどういう気持ちかを言動や、行動、表情から考え、何がこの人にとって一番良いのかを話し合っている。	○	継続していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談をし、話をする機会があるので、今までの暮らしについてや、サービス利用の経過をセンター方式にて聞いている。	○	継続していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の検温や血圧測定をしている。居室で一人でいたい時、他者との交流を持ちたい時、家事などのお手伝いが出る時など、思うままに1日が送れるように一人一人に合わせた援助をしている。	○	継続していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のフロアミーティング、申し送りや日々のあいた時間の中で話し合いを持ち、課題やケアをどうしていくのかなど考えており、家族にも報告や相談をしている。まず、職員間で話し合い、ケアプラン会議でケアマネ、看護師とも話し合いプランを作成し、家人面談をし、家族の意見も聞いて了解を得ている。	○	今後もこのように本人を支える人たちと話し合いながら介護計画を作成していきたい。 プラン作成から面談に至るまでの期間に時間がかかってしまっているのが現状であるので、できるだけ早く完成し、家族の了解を得るようにしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月毎のケアプラン会議にてプランの見直しを行っており、その都度現状に合ったプランになるように検討しており、必要なければ終了し、新たな課題が見つければプランの追加をし、家人に報告している。必要に応じて家人面談をおこなっている。また、年に1回の新プランでは必ず家人面談をするようにしている。	○	今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや、個々の生活記録に記入し、更に詳しく記録する必要がある場合は別の用紙に記載している。そして職員は日々業務に入る前にそれらに目を通し、情報の共有に努めている。そのためしっかりと介護計画の見直しに活かすことができている。	○	今後も継続していきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の思いは常に伺っており、その気持ちを大切にしているし、本人にとって必要な事は応援し、出来る限りの支援を実践している。	○	本人、家族の要望に応じて柔軟な支援をしていきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	例えば、歌や踊りのボランティアの方々に来て頂き、披露してもらう事で、皆さんとても喜ばれていた。また、専門学生の方々も実習で訪れ、利用者と交流している。	○	警察、消防、文化・教育機関との協力は得にされていない。他のグループホームはどうしているかなど学んで、検討していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人に必要があれば、ケアマネ同士の連携はとれており、他のサービス利用のための支援はしている。	○	本人にとって今何が必要なのかを考え、他のサービス機関が必要であれば、職員間でも話し合い、利用の為の支援をしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居前に権利擁護事業を受けていた方がいたが直接包括とのかかわりはなかった。現在包括からの秋状況の確認の連絡には応じている。	○	交流を深めていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の、十全病院が、かかりつけ医となっており、定期受診もあり、それ以外でも何かあればいつでも相談できる関係が築きあげられている。	○	継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ホームの担当医が決まっており、利用者ひとりひとりのことも把握してくれているので、安心して相談ができ、適切な指示、治療が受けられている。	○	今後も継続していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、入居者ひとりひとりの事を把握しており、体調の変化などあればすぐに報告、相談し、指示をもらっている。そして、日々の暮らしの中でひとりひとりの注意すべき点を指導してもらっている。	○	今後も継続していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	面会に行ったりもするが、家族からも情報を得たり、病院医師や看護師からも随時伺っており、連携はとれている。できるだけ早期に退院できるように、毎日病院に通ったり、ホームで点滴をしたりと出来る限りのことはして、早く本人の望む環境で暮らせるように支援している。	○	今後も連携を蜜にしていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医には常に相談しており、家族とも話し合いを充分にししており、方針を共有できている。そして、本人にとってどこで暮らすのが一番良いのかを検討している。	○	継続していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度になった場合は主治医や家族との話し合いをし、出来る限りのことはしたうえで、十全病院に入院されるため、職員や他入居者で御見舞いに行っている。	○	終末期のあり方について職員間で話し合いを持ちたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化は本人にとってダメージが大きいので、みんなで意見を交換し、話し合いを十分にしたうえで、行っている。	○	継続していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	何でも一人でできると思っている方、人の世話になりたくない方、が多いので、その人自身のプライドを大切に、声掛けもその時々、ひとりひとりによって方法を変えている。個人情報に関しても注意して扱っている。	○ 家族のような関係をつくりながらも敬意をもってこれからも援助していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分で決定する喜びのためにも何かを選ぶ時には2択にするなど、選ぶ範囲を狭くしたり、何をすることも本人の確認を得ながら行っている。個々に合わせて、声の大きさ、話す速さに気を付けている。	○ 今後も継続していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課(食事など)はあるもののそれ以外は、時間を決めてしまうと、利用者ひとりひとりのペースではなく、業務が優先になってしまうので決めてはいない。その日の利用者ペースで動くように努力している。入浴は介助の関係もあり、職員ペースになってしまう事があるのが現状である。	○ 今後も一人一人にあった援助が出来るように努力していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの美容院がある方は家族と共に掛けられている。職員で連れて行くこともある。お化粧品や、アクセサリーや服に関しても個々にあわせておしゃれが出来るように家人にの情報を得ながら支援している。	○ 今後も継続していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の個々の力に合わせて、例えば、今まではおかずの盛り付けをお願いしていた方がおかずの種類がいくつもある為職員が傍についていても混乱してしまうようになった人にご飯の盛り付けやってもらうようにした所、穏やかに安心してできるようになった。	○ 継続していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好きなお菓子や飲み物は把握しているので、日々の中でそれらが、食べられるように援助している。そして、買い物の際と一緒に掛け自分で買うことができるように支援している。	○ 継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録表をつけたり、夜間のみポータブルトイレを使用したり、夜間のみ紙パンツを使用する方もいる。ひとりひとりの力にあわせた声掛け、援助が確実にしている。	○	継続していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯や曜日は決めておらず、毎日入る方も多い。本人が気持ちよく入れる時に入ってもらっている。声掛けもその人に合わせることで快く入ることができている。つきっきりで介助の必要な方はどうしても職員の人数がいる時に入ってもらうことになってしまう。	○	継続していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食後の休息など利用者のリズムに合わせて行っている。夜間安眠できるように日中の活動を多くし、適度な疲労感をもてるようにしている。	○	継続していきたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物が好きな方は買い物へ出掛けたり、神社へお参りに行くのが習慣の方は神社に出掛けたり、おしゃべりの好きな方、世話好きな方、料理や掃除が得意な方、絵を描くのが趣味である方、ひとりひとりの力が発揮できるように職員は努力している。	○	本人の好きなことが長く続けられるように支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金持っていたい方もいるのでその方には小銭程度を所持してもらっている。自分でお金を持つことで、安心されている。買い物の際にはこちらで御預かりしているお小遣いを本人に渡し、フォローしながら支払いをしてもらう事もある。	○	継続していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ひとりひとりの希望やその日の体調にあわせて散歩や買い物に出掛けている。ひとち一日一回はそとに出られるようにしたいが、現状は訴えの多い人が優先されてしまっている。	○	自分から、訴えないひとにも更にこちらから声掛けを増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	今年始めて家族とともにいちご狩りに出掛けた。次回はフラワーパークに行く予定で、前回よりも多くの家族が参加してくれることになっている。	○	個別でも出掛けられるようにできたらいいなと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話してほしいと訴えがあった時や、家に帰りたい時など電話して直接話してもらっている。電話口に出て話の出来ない方も職員が代わりに話して本人の気持ちを伝えている。	○	継続していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会はいつでも歓迎している、また、利用者の中にはお客様用の椅子を用意してくれる方もいたり、いつでも気軽に訪問してもらえるように職員も「またいらして下さい」と声を掛けるようにしている。	○	継続していきたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。本人の思うように動いてもらっている、その分職員の見守りを強化している。	○	継続していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全を第一に考え、裏口には鍵が掛けてあり、玄関の自動ドアはタッチ式にしてあるが、外に出たがっている方をとめるようなことはしていない出たい様子が伺えたらこちらから声を掛け外に出るようにしている。	○	継続していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	どこにいるのかの把握は常にしており、姿が見えない時はさり気なく様子をみにいき、安全の確認をしている。	○	継続していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員間で話し合ったり家族にも相談して決定している。個々にあわせて危険を防ぐようにしている。	○	継続していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	例えば歩行不安定な方には必ず傍について見守りをしたり、靴やスリッパをひとりひとりにあった安全な物を履いてもらっている。居室は死角になりやすいので、万が一に備えて、やわらかいマットを敷き詰めている。	○	継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	「緊急時対応マニュアル」を作成しており、目を通して。また、勉強会も開かれて、学ぶ機会がある、しかし、訓練はされていないので定期的に行いたいと思う。	○	緊急時の対応のための訓練を行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年一回の防災訓練をして、利用者も参加してもらい職員はどう動くべきかの確認を行っている。	○	地域の方々にも協力してもらえようようにしたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時にリスクの説明を家族に説明し、入居後もその都度お話ししている。抑圧感のない暮らしの為に転倒のリスクはあるものの本人の思うように歩いてもらったりするため家族にも理解してもらえようように努力している。	○	今後も継続していきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化は常に記録しており、その日に勤務していなくてもあとで目を通しきちんと把握するようにしている。また、異変があった際にはすぐに看護師に報告し、速やかに対応している。	○	継続していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のカルテに薬の情報ははさんであり、すぐに、今どのような薬を内服しているのか確認できるようになっている。	○	継続していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄記録表を利用し、排便チェックを行っている。なるべく薬に頼らず、牛乳や食事、水分などに気をつけ散歩に出掛けたりしている。必要ならば座薬を使用するようにしている。	○	ひとりひとりがスムーズに排便できるように支援していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の力に合わせて、声掛けをし、見守り、または介助している。見守りや介助に拒否のある方のケアが難しい。また、毎食後のケアはできていない。	○	拒否のある方のケアをどうしていくべきか検討しえいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事摂取量を生活記録に記入し、把握している。水分はおやつ時も含めて、本人の好きな飲み物を提供するなど多く摂取できるようにしている。トイレが近くなるのを心配して水分を控える方にもマメに声掛けをし、水分が摂れるように支援している。	○	継続していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザや肺炎球菌の予防接種はしている。とりきめがあるので、それに目を通して実践している。入浴時は湯船のお湯をひとりひとり交換している。感染症の流行る時期は特に注意している。	○	継続していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎晩食器類はハイターにて消毒している。食事準備を手伝ってもらう際には必ず石鹸で手洗いをしてもらっている。食材などは早めに使い、マメに冷蔵庫のチェックを行っている。	○	継続していきたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりに、木や花を植えている。	○	親しみやすい感じにするにはどうしたら良いのか知りたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる花を飾ったり、食堂の壁には、季節感のある、折り紙や、絵などを貼ってる。廊下の掲示板には書道やぬりえやお便りを掲示している、居室には毎月手作りのカレンダーを貼ってあり、ホームのいたる所で季節を感じられるように工夫している。	○	継続していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や廊下にソファを置いてだれもが自由に座れ、くつろいでいる姿がよくみられる。気のあった利用者どうし互いの部屋を行き来することもある。	○	継続してきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものや、家族の写真を置く事で自分の部屋として認識しやすく居心地良く生活できている。	○	継続していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝・夕・清掃時には窓を開けて換気している。また体調にあわせひとりひとりにあわせ、エアコンを使用している。	○	継続していきたい。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ等には手すりを設け、自立歩行ができるようになっている。床には段差が無く車椅子の移動が自由に出来る。ベッドより床で寝るほうが安全な方もいるので床に布団をしいている。	○	継続していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日常生活の中で、家事など継続してできるように支援したり、例えば他者の洗濯物を自分のと思い込んでいたらそのまま受け入れ、あとでこっそり回収したりなど、脱いだ物と新しく着る物の区別がつかない方には入浴中に交換しておくなど様々な場面で本人が自分で出来ているんだ。と実感し自信を持って暮らせるように支援している	○	継続していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに物干しがあり一緒に洗濯物を干したり、外を眺めたり、花のみずやりを行っている。	○	継続していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員と入居者だけの関係ではなく、利用者同士のつながりを大切にしており、例えば食事の際には利用者をお願いして他の利用者呼びに行ってもらったりと、利用者同士と職員で互いに助け合って生活している。また、お便りは毎月写真入りの物を作成しており、家族に送り本人にも渡し、本人、家族共に喜ばれており、好評である。季節の行事を毎月取り入れるようにしており、ご家族にも参加して頂いている。入浴に関しては、曜日などは決めておらず、毎日入りたい人は毎日入浴して頂いている。ひとりひとりにあわせた得意なことや、趣味など、ができるように今までの暮らしを継続できるように支援している。